動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935／2936番
（公）043（224）7217番

96.1.16

No.

さあ！96年たたかい開始
―団結旗開き開催―

動労千葉一九九六団結旗開きは、一月一三日、千葉県労働者福祉センターにおいて開催され、組合員・家族、OB、そして多数の来賓の方々を含め、会場を埋め尽くす一八〇名の結集で大成功をかちとりました。

われわれ動労千葉は、昨年九五年、戦後五〇年という節目の年を、「JR体制を打倒しよう」「全国にはばたこう」という、二つの課題を軸に総力をあげて闘いました。

勝浦、船橋、御宿における選挙闘争の勝利、勝浦運転区廃止反対の一大署名運動、一一・五「大失業時代を撃つ全国労働者集会」の三千名結集の実現、その集大成として、第一波スト一〇周年を期して七二時間ストライキを闘い、激動の九五年に勝ちぬいて、九六年を闘う体制をつくりあげてきました。

今号では、旗開きにおける委員長あいさつをもとに九六年の闘いの課題について報告します。

大きな風、分・民10年、

委員長あいさつでは、まず始めに、七二時間ストライキを中心に九五年の闘いを総括し、九六年のとりまく情勢と闘いの課題について提起がされました。

国鉄の分割・民営化攻撃からこの一〇年間というのは、反動の嵐が吹きすさぶ時代、歴史的な反動期であったといえます、戦後五〇年目の節目の年といわれた九五年、政治、経済、社会のしくみ、いままでの労使関係も一掃する、とりわけ、反戦・反核意識を一掃する攻撃が、九五年の敵の目論んだ攻撃です。

それと必死になって格闘していく、われわれは、JR体制打倒の闘いに決起していく、こうした闘いの中で、一〇・二一沖縄八万五千の怒りの決起、一一・五労働者総決起集会の大成功、それを引き継ぐ七二時間ストライキの爆発、フランスにおける国鉄労働者を先頭としたゼネスト、世界中の労働者が資本の攻勢の中で蹂躙されてきたことに対して反撃が開始された、反転攻勢の時代に入ったということです。

あきらかに大きな風が吹き始めている、この風を、われわれの側の追い風にするのか、それとも大変な向かい風にしてしまうのか、これが九六年の勝負どころです。

国鉄闘争が重要な局面を迎えます、分割・民営化、九六年四月一日から一〇年目、住専の比ではない、三月決算すると二八兆円をこすであろう累積債務、膨大な土地を売り、株も一部売ったのに、一体これをどうするのか。貨物会社、北海道・四国・九州、三島の経営がほとんど赤字経営、これをどうするのか。JR東日本とJR総連・革マルの異様な癒着体制。九六年は、今まで蓋をされてきたあらゆる矛盾が一気におもてに出でくる年です。

そして、沖縄、安保問題。戦後五〇年問題そのものであり、沖縄で火が吹き初めている三月三一日期限切れの「軍用地使用問題」。太田知事が代行署名を拒否しています、四月一日以降、米軍と国の防衛施設庁が住民の私有地を不法占拠するという事態が生まれようとしています。アジアをめざす侵略的な政策を強行しようとしている、日本とアメリカの帝国主義者にとってみれば大変なドスをつきつけられているという関係です。

これがあるから破防法という問題がおきたのです。戦前の治安維持法の様に権力が何でもできる、これをオウム真理教を利用して破防法を発動しやすくする、こうゆう背景があると認識する必要があります。

決着つけろ

九六年を本当に、この一〇年間の、臥薪嘗胆、頑張り抜いた一切合財の力を発揮する年にしなければなりません。

九六年の春闘からはじまって、おそらく前半六―七月段階で国鉄問題が大きな焦点になります、七月に東京で大々的に国鉄分割・民営化をめぐる大集会を企画、それから今年も再度、昨年とはちがった意味で、上潮の中から一一月に、また動労千葉は全国の仲間達に総決起集会を呼び掛けることを構想しながら、九六年を本当にこの一〇年間の大きな決着をつける年として、そして、動労千葉の組合員であるという理由でやりたい放題やられてきたことにたいして、ケジメをつける年として全力をあげて闘いぬきましょう！

（来賓あいさつ、檄電等は次号掲載）

阪神大震災一周年　被災地は今

一・一七　被災労働者を励ます集い

とき　一月一七日（水）
一八時より

ところ　豊島区　南大塚ホール
指定列車　千葉駅九番線
一六時四四分発快速